

別紙 学校関係者評価報告書

I 重点目標について

令和4年度重点目標
1, より多くの入学希望者を募り定員の充足を図る。2, 学習者本位の「職業教育」実現に向けて教育力を向上させる。3, 入学者全員の国家試験合格者を目指した教科指導を実践する。4, 全学生の将来設計実現に向けた「キャリア教育」及び学生支援を行う。5, 新型コロナウイルス感染症対策と学習機会の両立を図る。
達成目標・取組方法
1について ■新入生定員充足率 100% (鍼灸学科 60名、柔道整復学科 90名、歯科衛生学科 120名) 学生募集のポリシーとして入学希望者一人ひとりに寄り添い、将来設計の構築を全力でサポートすることを常に心がけた広報活動を展開する。
2について ■授業評価アンケート平均値の向上 授業力向上に向けた施策としてOJT、授業アンケート、公開授業、研修等の有効化を図るため、FD委員会を定期的実施する。
3について ■中途退学率 全校6%以内 ■国家試験合格率 100% 退学、休学、留年による離脱率の目標を定め、各学科・学年毎の目標を設定し、協働して目標達成するための施策を学科毎に策定し実行する。
4について ■就職率 100% キャリアデザイン支援室と学科が協働し学生の就職支援を着実に実施する。
5について 基本的感染症対策の徹底に加え、日常の健康状態の確認、入館時、授業における対策を徹底し、校内での感染リスクをできる限り低減させる。
自己評価
1 新入生定員充足率 100% 今年度においては、目標を達成することができなかった。次年度においては目標を達成する為の取り組みが課題である。
2 授業評価アンケートを実施し昨年度に比べ平均値の向上が見られた。学習効果の高い魅力のある授業づくりのための授業アンケートを実施する。
3 国家試験合格率 はり師 79.6% きゅう師 81.6% 柔道整復師 40.0% 歯科衛生士 91.4% 鍼灸学科及び柔道整復学科、歯科衛生学科の国家試験合格率が100%に至らなかった。来年度に向けて、入学生全員が3年間で国家試験受験に臨める学校づくりを目指した教科指導と国家試験対策を更に進める必要がある。 中途退学率 鍼灸学科 6.3% 柔道整復学科 7.5% 歯科衛生学科 6.5%

<p>今年度においては、目標を達成することができなかった。留年・休学・中途退学率の低減対策を更に進める必要がある。</p> <p>4 就職率 鍼灸学科 100% 柔道整復学科 100% 歯科衛生学科 100%</p> <p>5 対面授業の完全実施を行うことができた。校内においてクラスターは発生しなかった。</p>
<p>学校関係者評価</p> <p>1 鍼灸学科、柔道整復学科、歯科衛生学科の国家試験合格率は、目標の100%に至らなかった。目標達成に向けた更なる取り組みが必要である。</p> <p>2 新入生数（定員充足率）においては、目標達成に向けた施策や取り組みが課題である。</p> <p>3 就職率においては、目標達成を達成した。来年度においては、きめ細かい就職サポートの実現が課題である。</p>

II 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>教育理念、教育目的及び育成人材像については、学則及び新宿医療専門学校における専門学校教育実現のための方策として定め、教育理念と教育目的を実現するための到達目標を本校全体としての卒業認定・称号授与の方針（ディプロマポリシー）として定め、育成人材像を明確化した。</p> <p>ディプロマポリシーの2本柱である、「主体的・自立的に行動できる人間力」と「医療専門職として必要な臨床力」を身につけることに対する取り組みを、社会人基礎力を養成するための「キャリア教育」と、職業人専門力を養成する「職業教育」両面からの教育と捉えている。</p> <p>本校の育成人材像が国民のニーズに合ったものであるために常に見直す取り組みが求められる。</p>	<p>理念・目的・育成人材像は、学校案内やホームページに適切に表現されている。</p> <p>理念・目的・育成人材像を、卒業認定・称号授与の方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）として、広報媒体等を通して保護者、企業、関連業界等に周知する必要がある。また、役に立つ医療人を育成することが必要である。</p>	<p>理念・目的・育成人材像を、卒業認定・称号授与の方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）として、広報媒体等を通して保護者、企業、関連業界等に対して個別に周知を図る。</p>

基準2 学校運営

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>理事会・評議員会は寄付行為に基づき適切に開催され、審議は、議事録に残されている。寄付行為の改正は、適正な手続きを経て為されている。学校運営に必要な事務及び教学組織は整備されている。</p> <p>運営会議は、定期的（月4回）に開かれ、ここで組織図、組織規程を策定し下部会議体へ伝え、各会議体と委員会は各部所の責任を明確にしている。各会議体は議事録を開催ごとに作成し、決定事項を執行している。</p> <p>「自己点検・自己評価」のPDCAサイクルによる確実な実施及び、中期計画の基となるグランドビジョンの策定が課題である。</p>	<p>理事会・評議員会は適切に開催されている。学校運営も適切である。</p> <p>会議も定期的に開かれており、議事録も作成されている。</p>	<p>「学校関係者評価委員会」による関係者評価に基づいた改善を更に進める。</p> <p>中期計画の基となるグランドビジョンの策定を進める。</p>

基準3 教育活動

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>理念等に沿った教育課程の編成・実施方針は明確である。また、学科毎の教育レベルは、免許取得という目標が明確であり、その指導・支援体制は整っている。</p> <p>各学科の卒業認定の方針（ディプロマポリシー）では業界の動向を踏まえた到達目標を定め、その方針を達成するための教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）ではその内容をカリキュラムマップでわかりやすく示している。</p> <p>キャリア教育ではコミュニケーション能力を高める取り組みの充実が課題である。</p>	<p>理念等に沿った教育課程の編成・実施方針は明確であり、教育目的・目標に沿った教育課程を編成している。関連業界等との協力体制が必要である。</p>	<p>関連業界等との協力体制の構築を図る。</p> <p>キャリア教育では学生による学園祭の実施やクラブ活動等を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p>

基準4 学修成果

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>鍼灸学科、柔道整復学科、歯科衛生学科ともに全員合格を目標にしている。鍼灸学科及び柔道整復学科・歯科衛生学科は、目標を達成することができな</p>	<p>鍼灸学科は、はり師 79.6%、きゅう師 81.6%、柔道整復学科は、40%。歯科衛生学科は 91.4%であった。目標達成に向けた更なる取り組みが必要であ</p>	<p>国家試験合格率 100%達成に向けて指導計画、実行、評価、改善を定期的に行う。（国家試験傾向分析委員会の設置）</p>

<p>かった。 希望就職先内定率100%を目標にしている。 3学科ともに学生の希望に添った就職先を提案し、就職活動のサポートを行っている。</p>	<p>る。 各学科共に就職率については、目標を達成している。</p>	
---	--	--

基準5 学生支援

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>中途退学の要因・傾向、退学者数及び指導経過については、把握し記録を保存している。 最近の学生相談は学習面や生活面だけでなく、健康面での不安を訴える相談が増加しつつある。 学生の企画により学園祭を開催し学生主体の学園祭の道筋が出来た。 新入生を入学前に来校させ学習方法を指導すると共に友達作りをさせ、個々の大まかな性格などを把握する。入学時に保護者と新入生を集めオリエンテーションを行い連携を取っている。</p>	<p>中途退学低減に向けた取り組みとして、学生の学力及び心理面の状況に応じた低学力対策及びメンタル面の指導をさらに進める必要がある。 また、学生と教職員とのコミュニケーションの取り方が課題である。</p>	<p>複数担任制を実施し中途退学になる前に対応できる様な環境作りを検討する必要がある。 授業欠席数が多い学生を適宜指導する。また、休退学者の原因分析・今後の対策を検討する。 学生とのコミュニケーションの取り方について、検討する。</p>

基準6 教育環境

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>施設・設備・教育用具等の整備は十分であり、日常点検等は適切であり、改修等も適切に行っている。 令和4年度は、教職員の避難訓練を実施した。毎年全学年、年度はじめに避難訓練を行っている。 事故対策マニュアルを作成し、校内での授業中の事故に対応している。</p>	<p>施設・設備、日常点検も適切である。また、防災マニュアルも作成し、周知もされている。 建物の耐震化、転倒防止は適切である。</p>	

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>高等学校等への情報提供は、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、十分な対応ができなかった。この対応が大きな課題となっている。 学校案内やパンフレット・ホームページには特色を分かり易く掲載するように努めたが、資料請求者</p>	<p>学生募集、入学選考については、適切に行われており、問題は無い。今後さらに取り組みを推進して来年度の目標を達成することが課題である。</p>	<p>高等学校の教職員向けの進学説明会に積極的に参加して、情報提供に努めるとともになかなか実施できない説明会ではなく、ホームページを使った情報提供ができるように推進する。 他校より動きが遅くならないよう、現高校1・2年生の動向を注視し、媒体業者からの情報収集に努</p>

は、前年対比で20%程度減少した、この原因は新型コロナウイルス感染拡大による影響が挙げられる。		める。
---	--	-----

基準8 財務

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>学校としての収支は収入超過となった。今年度の入学予定者は、定員を確保できなかったものの充足率は87%であり、来年度は収益が今年度より悪化する見通しである。</p> <p>法人全体としての収支バランスはとれており、法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。</p> <p>入学生確保に係る学生募集行動計画を策定し、コスト管理をしながら、中期財務改善計画に基づき、設定された目標を達成できるよう学生募集活動に取り組む。</p>	<p>法人全体としての収支バランスはとれており、財務基盤は安定している。次年度は新入生定員充足率100%を確保することが課題である。</p>	<p>次年度の学生募集は、ホームページや媒体並びにSNSを強化することで、来年度への導線を強化する。</p> <p>学生募集の強化とともに、退学防止については、全教職員が一丸となり学生満足度を上げる施策を行う。</p>

基準9 法令遵守

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>関係法令等を遵守し、適切に学校運営を行っている。また、必要な諸規程を整備しているが、ハラスメント防止の対応マニュアルや、コンプライアンスに関する相談窓口を設置し研修を実施している。</p>	<p>学校評価を適切に行っている。今後は、学校改善につながるようにしてほしい。</p>	<p>個人情報管理の組織的、計画的実施を更に進める。</p> <p>PDCAサイクルを軌道に乗せ、学校改善へ取り組む。</p>

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価	学校関係者評価	改善方策
<p>地域の受講者等を対象とした講習会とストレッチ教室を毎月開催している。</p> <p>学校の施設を開放して、業界のセミナーや研修会等を行っている。</p> <p>学生のボランティア活動を奨励している。</p>	<p>業界で行っているセミナー・研修等を奨励して欲しい。</p>	<p>関係団体と連携を図りセミナー・研修等の機会や情報を提供する。</p>